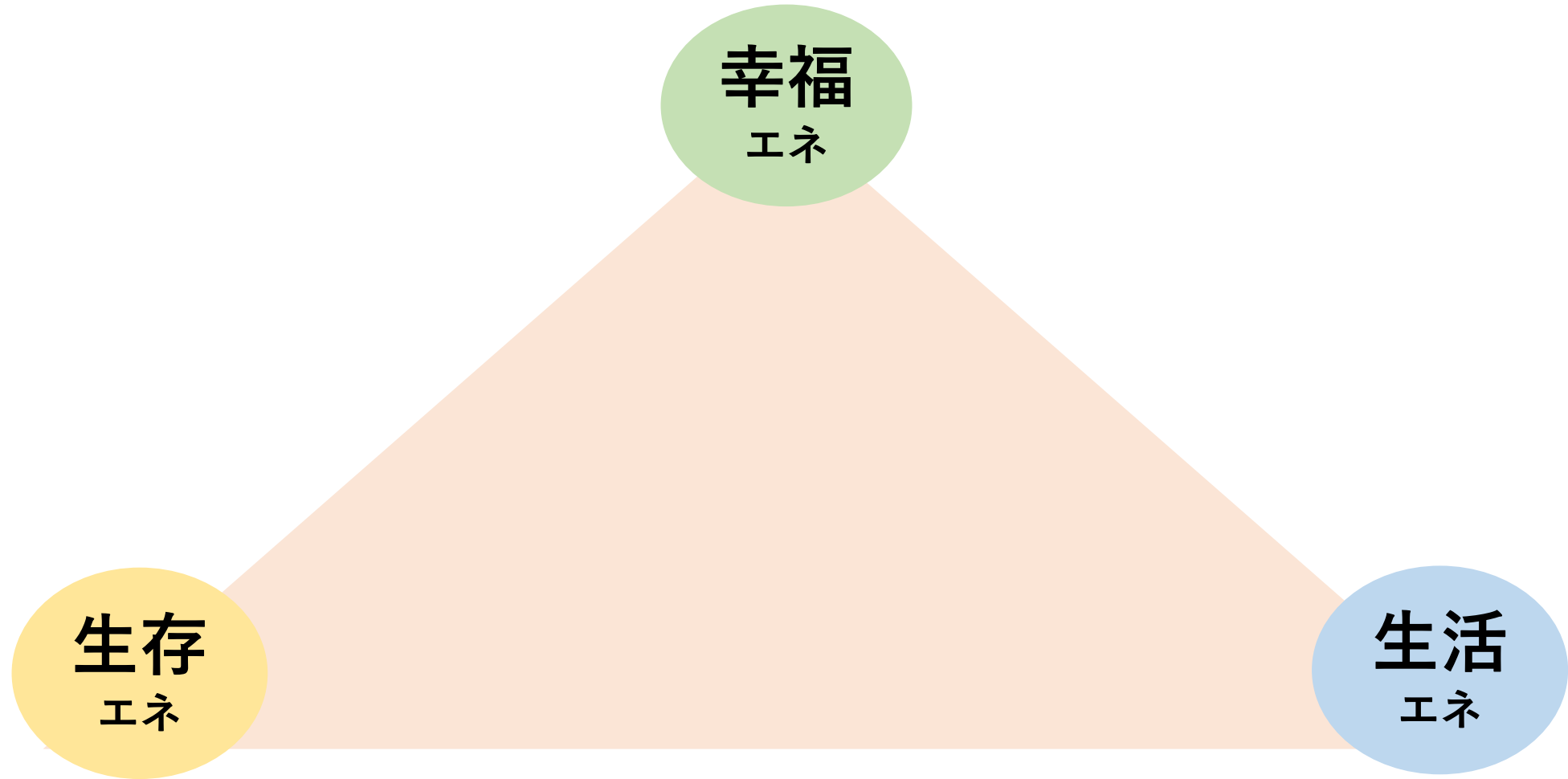


農産福



500万年前
~600万年前

生存
エネ

人の出現

人の出現 500万年前
ホモエレクトス

オールドバイ遺跡
火を使う 180万年前~200万年前
火をおこす45万年前

生活
エネ

火を使う

火をおこす

1993年福祉元年 **幸福**
エネ

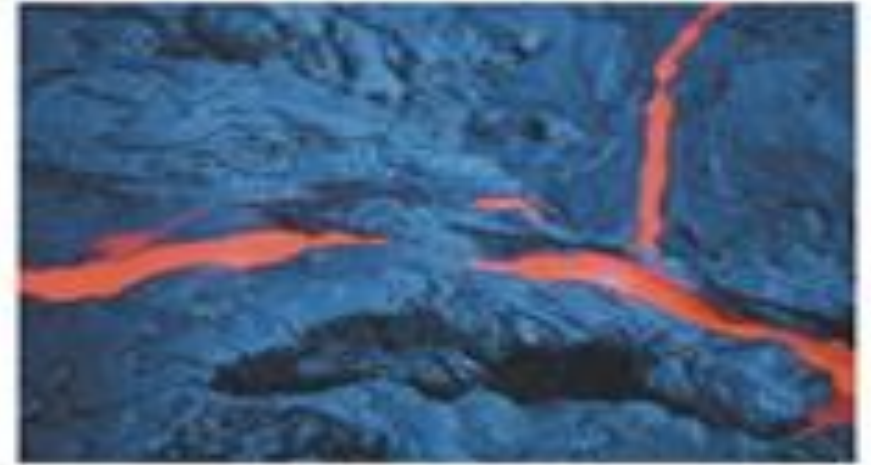
火と人



高橋 英一 (1911-2000) 1960年代後半から1970年代前半にかけて、オーストラリアの考古学者、anthropologist (古人類学者) として活躍。高橋英一は、オーストラリアの考古学者、anthropologist (古人類学者) として活躍。高橋英一は、オーストラリアの考古学者、anthropologist (古人類学者) として活躍。高橋英一は、オーストラリアの考古学者、anthropologist (古人類学者) として活躍。



【図1】 人類の進化過程の仮定モデル (リーキー&ルーヴィン 1960(197万年前))



ナショナル ジオグラフィックより



【図2】 最初の人類の移動 (高橋 1995, 1998)

200~150万年前 ヒトのアフリカからアジアへの移動 【図2】
130万年前 火の使用

人間の条件

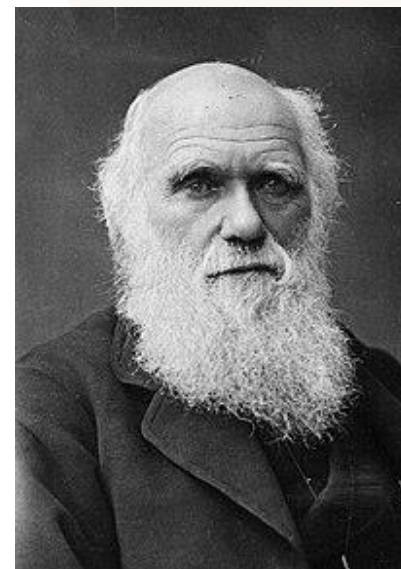
Out of Africa

出エジプト記



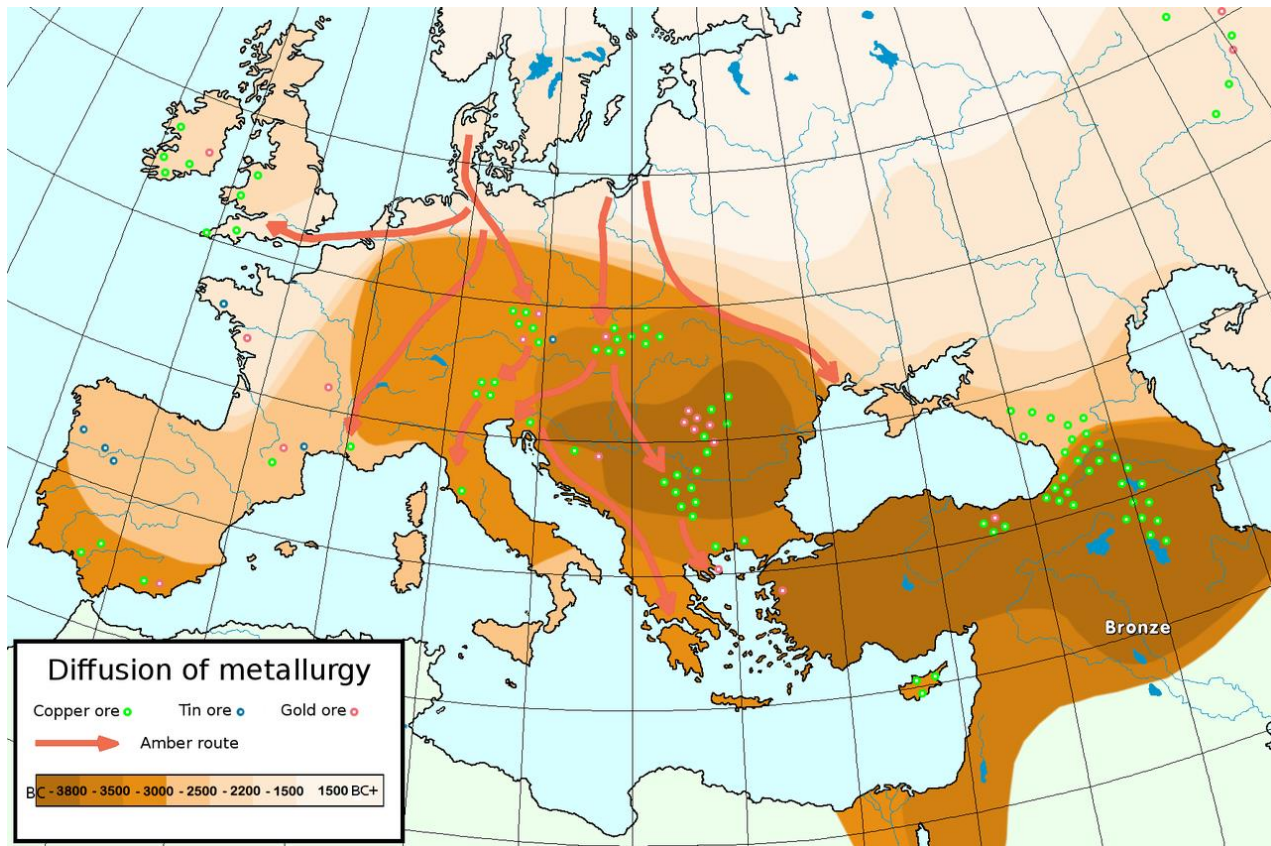
リーキー博士

Richard Erskine Frere Leakey



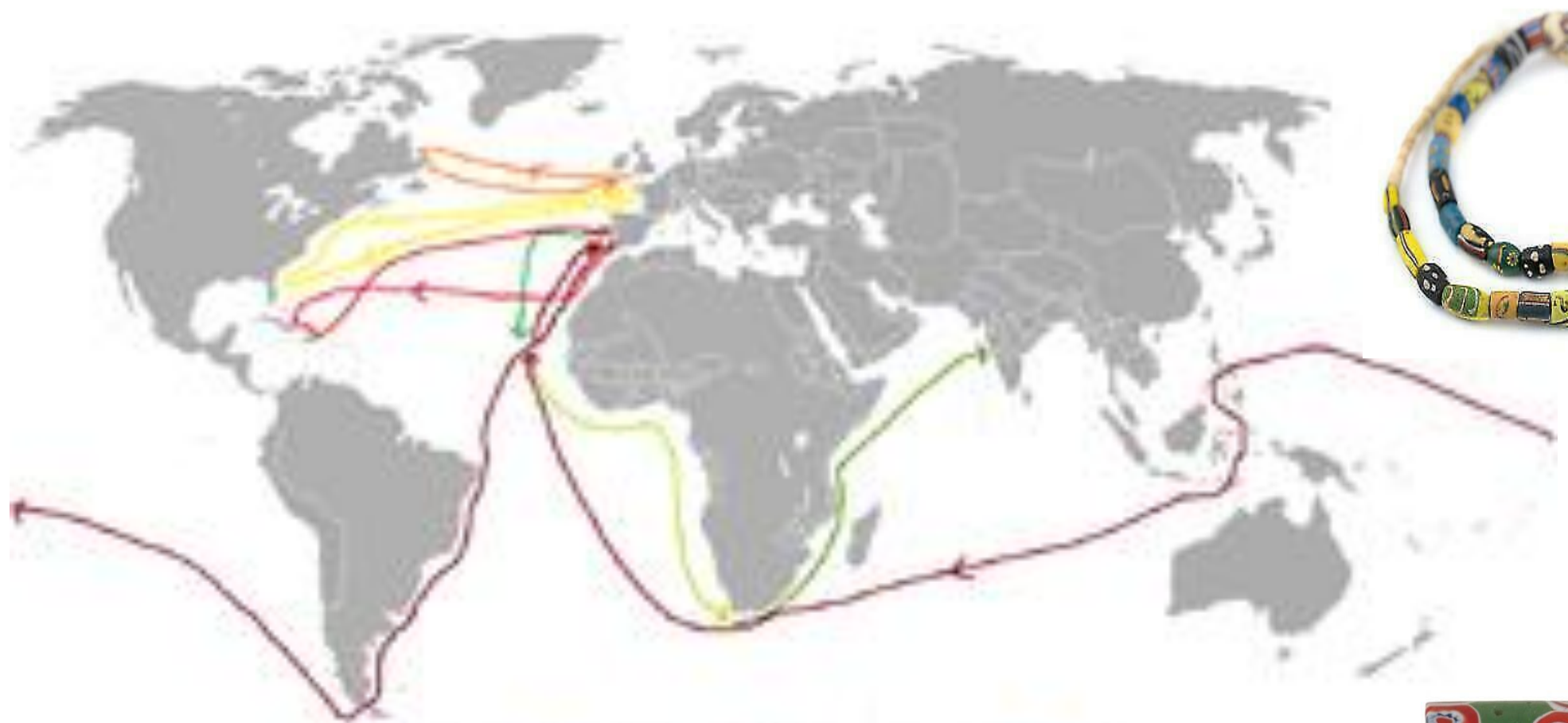
Charles Robert Darwin

石器時代から金属時代へ アフリカを出て金属を手に入れた人



三大発明

羅針盤・印刷・火薬により大航海を制した



- Silk Road
- Indian Ocean
- Atlantic and Indian Ocean
- Cape of Good Hope
- Pacific

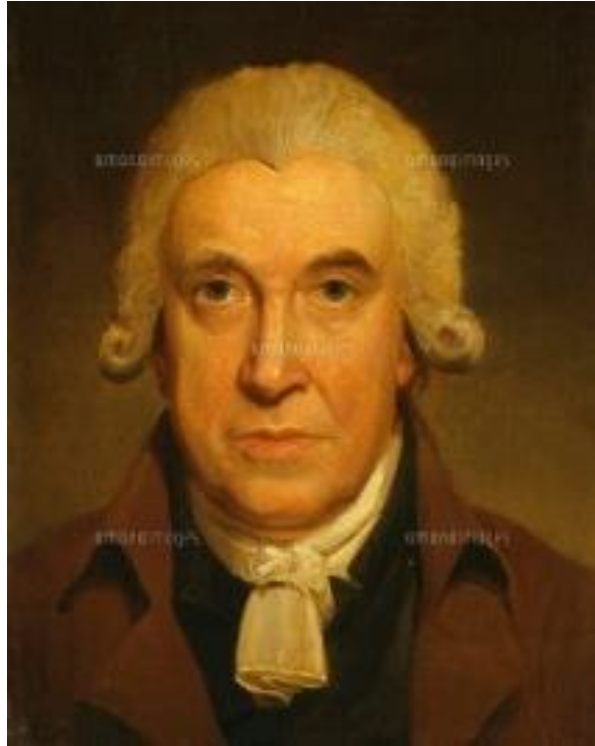
Routes in 1500 - Routes in 1600



やがて迎える産業革命

産業革命
農業革命

ジェームスワット **工学**
カールとボッシュ **化学**

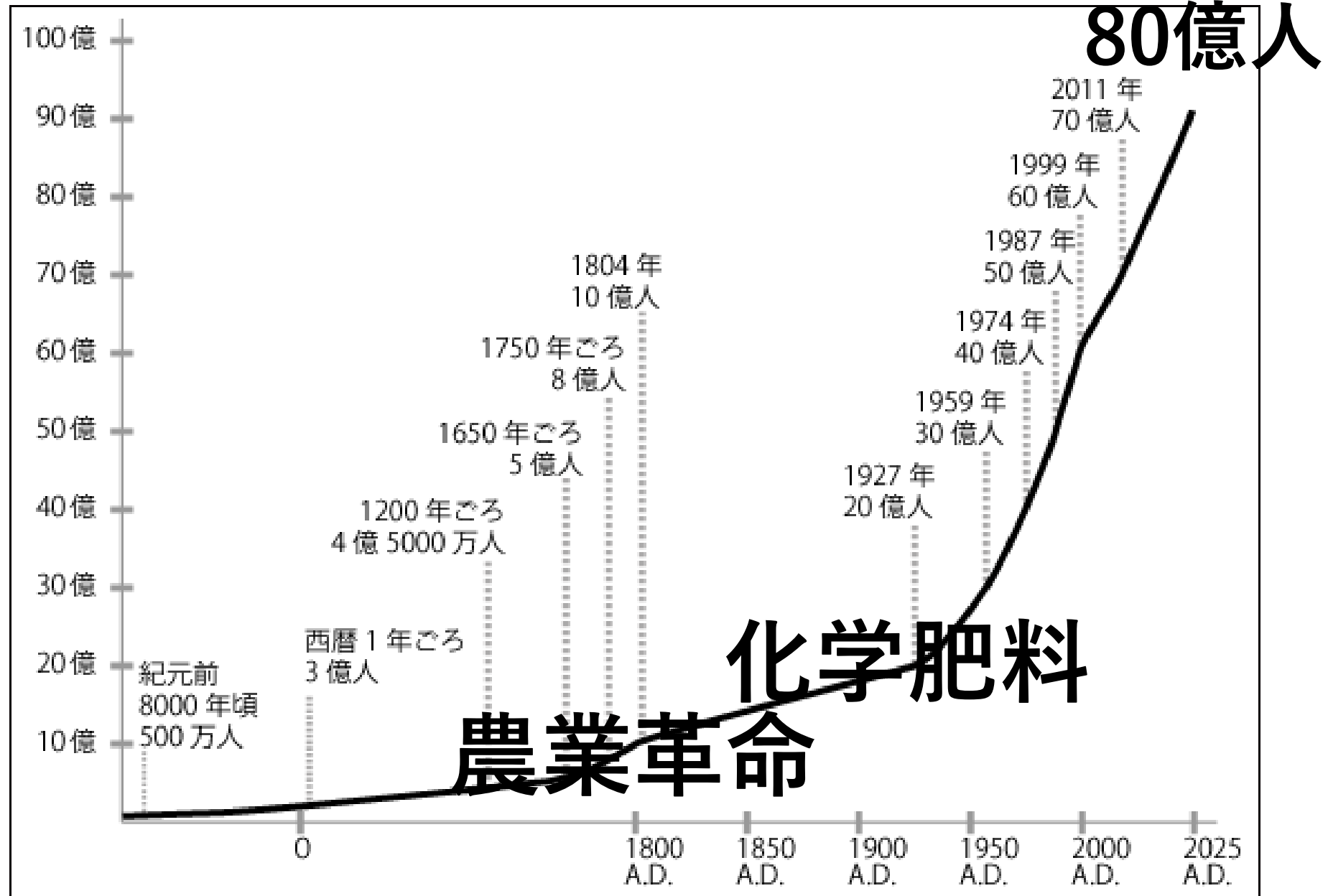


植民地時代





大航海を制し、産業革命によって生産力を格段に上げたヨーロッパ列強はアフリカ、南アジア、南北アメリカ、豪州を植民地化した。環太平洋を例に挙げると、カナダ、アメリカ合衆国、オーストラリアの農園主は白人で英語を喋る。これは、イギリス系の人間が現地人を追い払って大農園を作ったことを表している。遅れて列強に参入した日本も蝦夷地を拓殖し、満州を手に入れたが、満州は太平洋戦争の敗戦で手放すことになった。

マルサスの人口論



日本の農業と農地法の歩み

安土桃山時代から
太平洋戦争終戦まで

安土桃山	豊臣秀吉による検地 農地法「農地は耕作する者の物」とした。	規制 Regulation
江戸	封建制度身分の固定 規制続行	規制続行
明治、大正 昭和	ペリーによる外圧 明治維新 1968~1878年 大地主制 資本主義 農民社会主義の芽生え	ペリーによる 自由化  Revolution
1941年	太平洋戦争	農地委員会
1945年 1952年	戦後GHQによる大地主大資本の解体 終戦 農地改革 GHQの命令 農地法成立 農地改革終了	マッカーサによる規制  Revolution
農地は耕作者の物		

耕作者の
地位固定

農地法の理念

食糧安定
供給

終戦から現在まで

1961年	土地持ち非農家の土地を耕作者に譲渡出来る緩和制度
1962年	農地拡大支援 農地を農協に集約、農業生産法人の出現
1962年	農協に農地、集積に失敗 制約が多すぎて生産法人が出来なかった。
1970年	賃借権規制緩和 自作農主義 新小作農主義へ
2000年	農産物輸入規制撤廃により、農産物輸入拡大に対抗する為の農地拡大と農業規模を拡充する為、株式会社の参入が必要になった。
2011年	営農型太陽光発電の考え方が浮上
2020年	農福連系の考え方が浮上

農業委員会

生存エネと生活エネの安全保障

米（食糧）自給率⇒100%以上

米本位制度の食糧安全保障
国産生活エネ自給率20%

石高 例

加賀百万石⇒一石は一人が一年で食べる米の量。

領主の取り分は35%だから加賀藩では35万人が一年間籠城できる。

したがって重要なのは食料ではなく食糧である。

つまり日本の食糧安全保障は保たれているとあって良い。

生存エネと生産エネを巡る日本の戦争

富国強兵

米



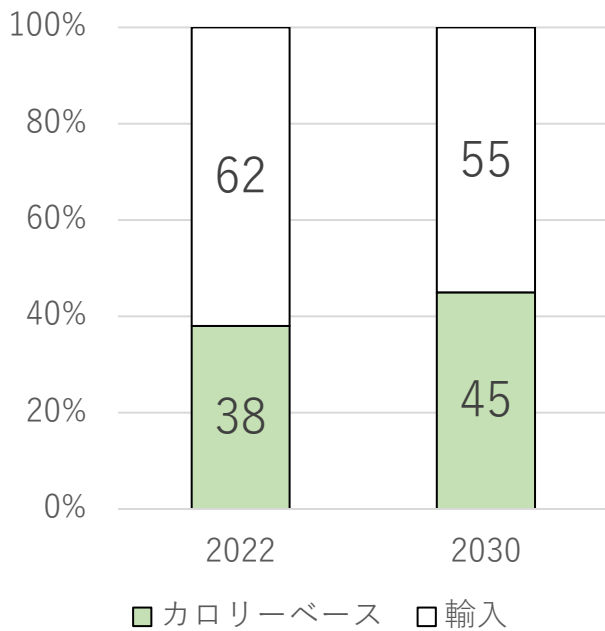
石油

エネルギーの自給

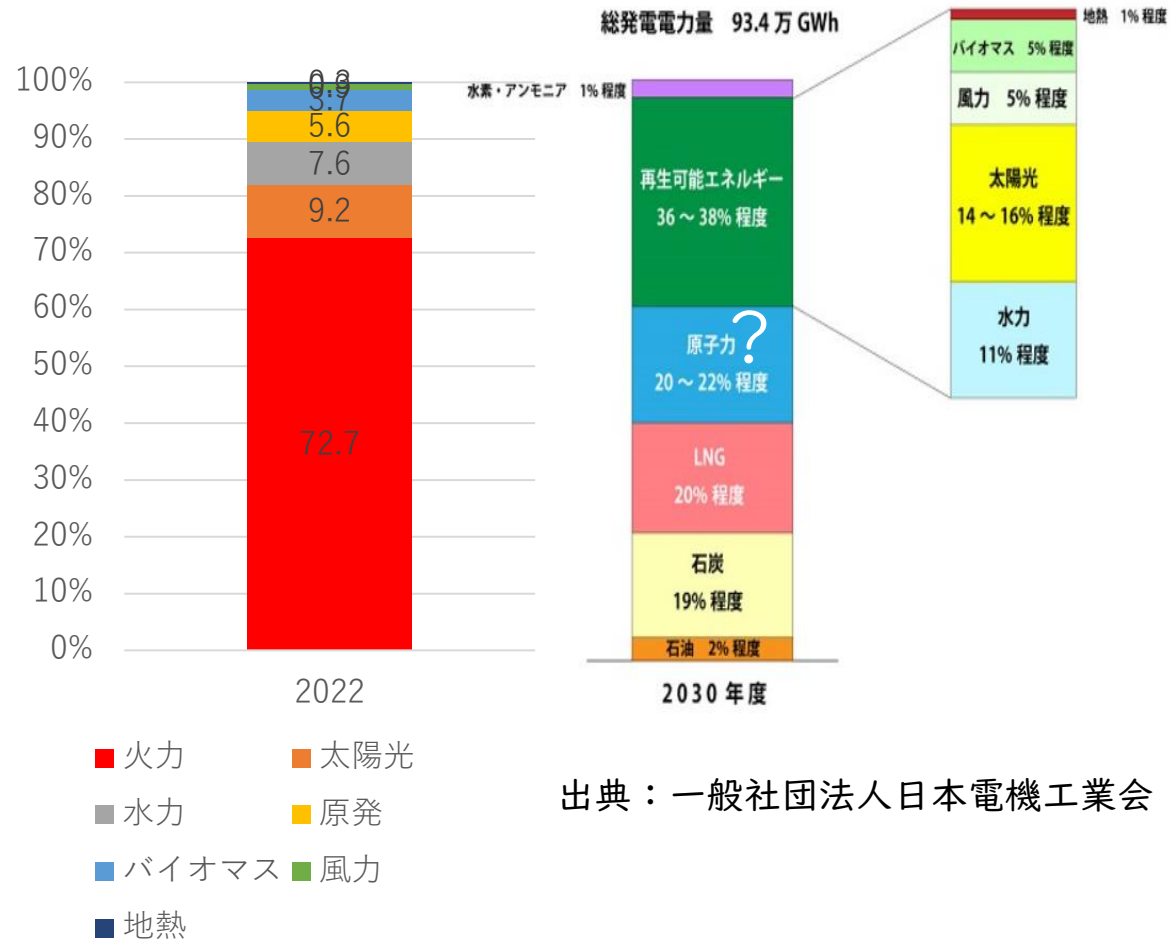
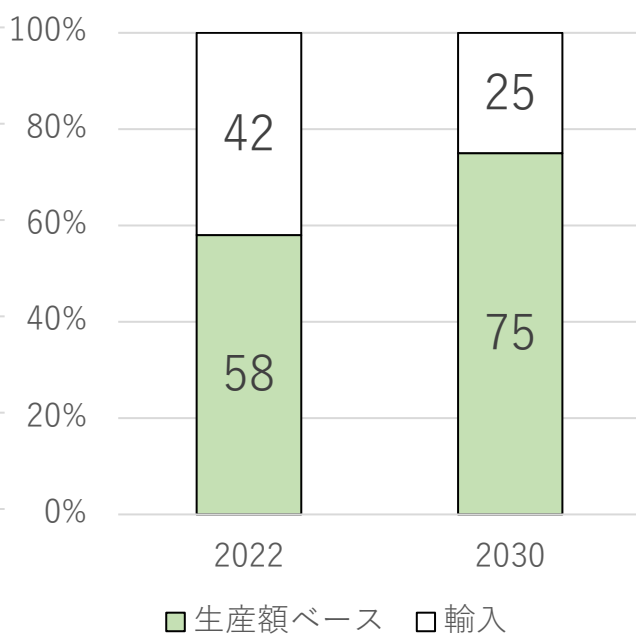
生存エネの自給

生活エネの自給

食料自給率
(カロリーベース)



食料自給率
(生産額ベース)



出典：一般社団法人日本電機工業会

日本に来る石油の90%は中東から



環太平洋



生活エネ安全保障

生活エネ国産自給率は約25%

もし東南シナ海が封鎖されれば…

日本が暗くなる

夏は熱く冬は寒くなる

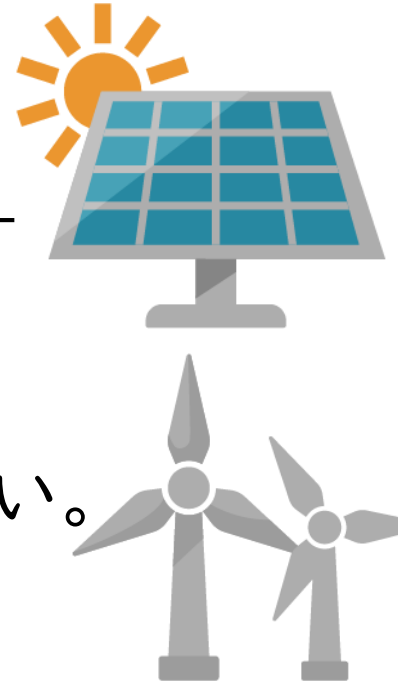
米が焚けない

食料が移動できない

コンピューターシステムが止まる

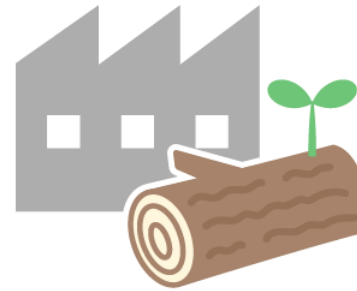
だから国産生活エネ自給率を高める

日照率のいい日本にはソーラー発電が適している。



風力

平地が少ないうえに、山の上の風力発電は許可が取りづらい。
洋上風力はコストが高い。

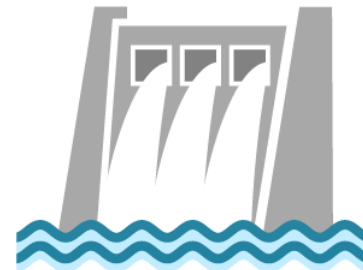


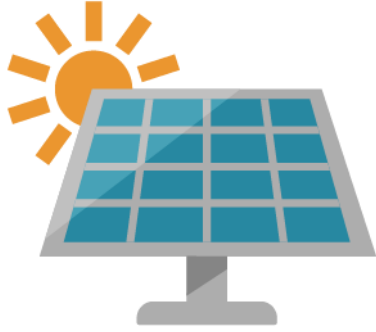
バイオマス

絶対的に燃料がない。
海外からの燃料輸入は本末転倒である。

水力

環境問題があって増やせない。





ソーラー発電



場所がない



埼玉県と山梨県を足した大きさの
耕作放棄地はある



しかしそこに横たわるのは農地法

農地法とは

農地法では、「耕作者自らが農地を所有することを最も適当である（自作農主義）」としてきました。

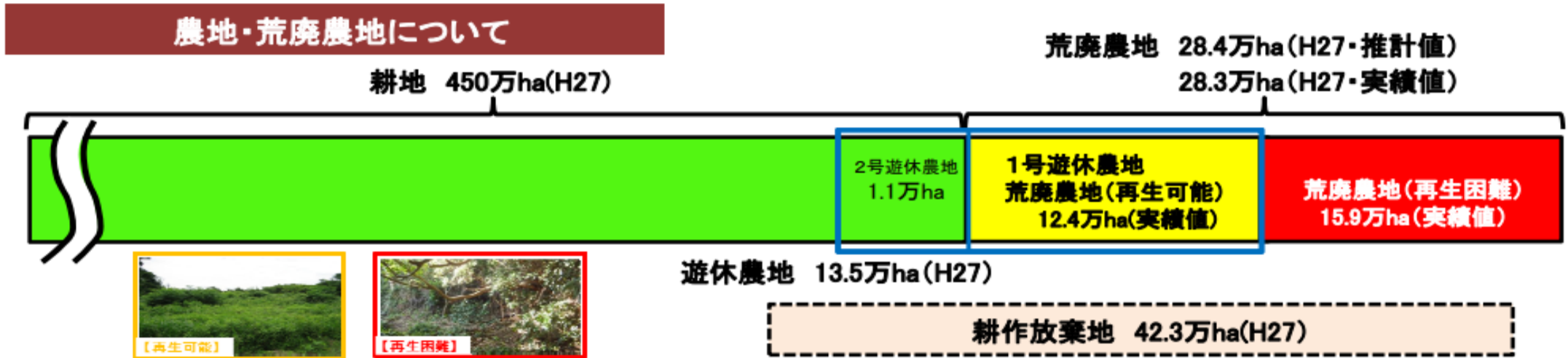
しかし食料自給率向上などの面から農地が地域における貴重な資源であることを重視し、平成21年12月15日に「農地を効率的に利用する耕作者による地域との調和に配慮した権利の取得を促進すること」に改正施行されました。

農地法はほかに、農業生産の基盤である農地を確保し、食料の安定供給の確保に資するため、農地を農地以外のものにする（＝農地転用）を規制し、農地の利用関係を調整する役割があります



農地法の規制が100万ヘクタールに及ぶ耕作放棄地を生む

日本には100万ヘクタールの耕作放棄地がある



平成29年 遊休農地・荒廃農地・耕作放棄地



農地法は何のため？



食料安全保障



実際は食料ではなく食糧だ



食料と食糧

食料⇒食べ物

食糧⇒カロリー源となる穀物

少し幸福論

廃棄食料約30%をどう考えるか？



野菜（食料）自給率⇒73%

魚介類（食料）自給率⇒61%



陸上動物たんぱく質自給率



牛肉⇒35% (9%)

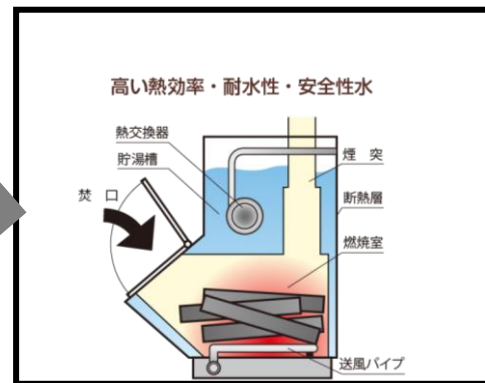
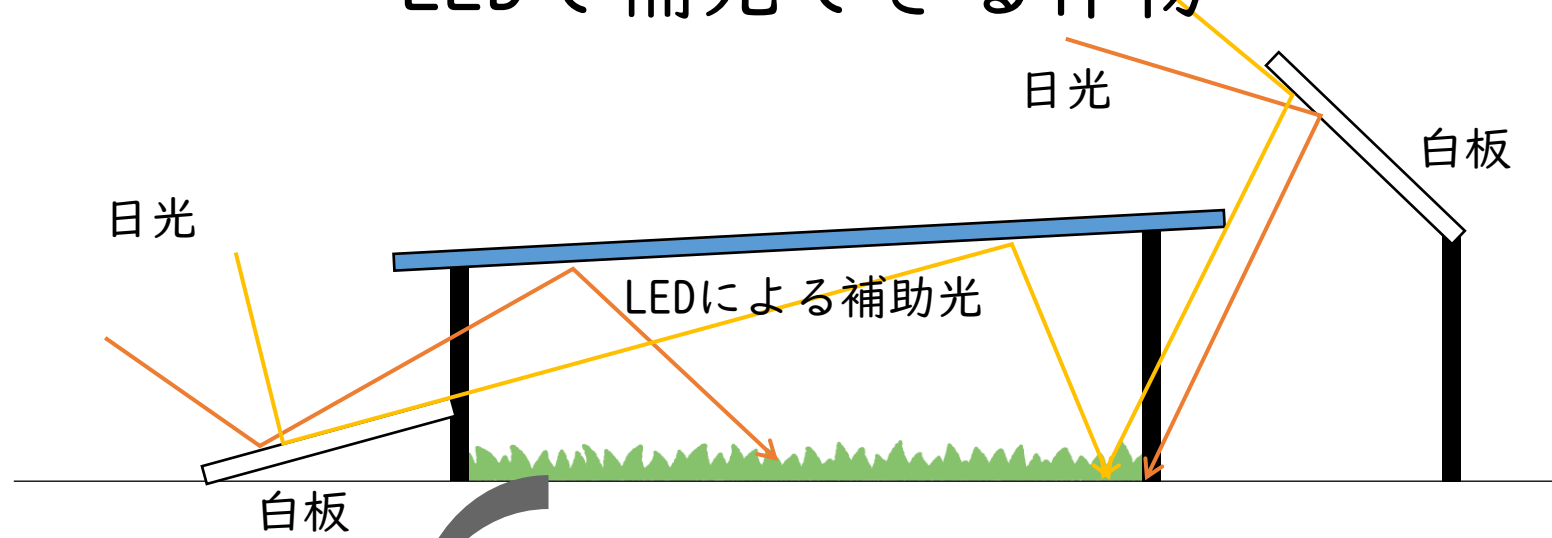


鶏卵⇒96% (10%)

牧草を含む国産飼料の増産が求められる

生存エネと生活エネの融合 皆様にお願ひしたい作物

直射日光が嫌いな作物や暗いところが好きな作物
LEDで補光できる作物



産業廃棄の残骸物を燃やす

ご清聴ありがとうございました。

この農業を福祉と連携して遂行するご知恵をいただきたく存じます。

経済性をベースに皆様の哲学、宗教、人間工学などを踏まえてご議論ください。